

令和8年度

学校評価

運営に関する計画



大阪市立城東中学校

令和8年4月

大阪市立城東中学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【安全・安心な教育の推進】**

多くの生徒が高い規範意識や他者を理解しようとする優しい心情を持ち、学校、学年の行事や委員会活動、部活動等の体験を通じて自身の役割を自覚して責任を果たそうと努力している。自他の生命を大切にし、自ら学び行動し、仲間と協調できる生徒の育成を目標に、教職員が連携して粘り強く教育活動に取り組んできた成果といえる。いじめについて、発生件数は少ないが、言動によっていじめに至るケースがあり、日常的な見守りや心の天気の記事内容から早期に生徒の心情の変化に気づき、対応していく必要がある。不登校については、依然として在籍比 10%を超えているが、少しずつ状況が改善しており、引き続き、生徒、保護者との対話を重ね、SCやSSW、こども相談センターとの連携、フリースクール等の活用など、生徒の成長につながる対応、取り組みを行っていく。今年度、校内教育支援センター (SSR) を常時開室し、安心して登校できる場所、教室復帰までのステップとして支援の幅を広げていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校の授業には真面目に取り組む、落ち着いた学習環境を維持しているが、家庭学習を含め自主学習の習慣は十分ではない。学力の低位層と高位層が少ないことも本校の特徴である。個々の生徒の学力を引き上げていくために、デジタルドリルや学習動画コンテンツの活用を促し、自主学習習慣の定着を図る。また、体を動かすことへの意欲や運動習慣については男女で差があり、女子生徒の運動意欲の喚起が課題である。体育の授業をはじめ、体育的行事、運動部の活動時間を確保するとともに自ら運動を続ける習慣の定着を促すよう取り組む。

【学びを支える教育環境の充実】

学習者用端末の活用頻度について、3 学期 1 月以降、大阪市の目標に届くようになった。情報モラルやリテラシーの意識を高めながら、心の天気の入力やデジタルドリル、学習動画コンテンツの活用を促し、効果的な活用を図っていく。

勤務時間の上限に関する基準 1、基準 2 について、年々改善しているが、月 80 時間を超える教員もいる。心身の健康を維持し、個人や家庭生活を大切にして勤務を続けることができるよう、業務の効率化、平均化を図るとともに教育活動の精選に取り組む。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和 11 年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 86%以上にする。(令和 7 年度結果 85.6%)
- 令和 11 年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。
- 令和 11 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(令和 7 年度結果 30.2%)
- 令和 11 年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 76%以上にする。(令和 7 年度結果 73.6%)

- 令和 11 年度目標アンケートにおける「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。
- 令和 11 年度目標アンケートにおける「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 95%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 中学生チャレンジテストにおける、国語のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より向上させる。(R5 中 1 から R7 中 3 : 0.2 99.6 → 99.8)
- 中学生チャレンジテストにおける、数学のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より向上させる。(R5 中 1 から R7 中 3 : 0.8 98.7 → 99.5)
- 令和 11 年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 92%以上にする。(令和 7 年度 80.8%)
- 令和 11 年度目標アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 83%以上にする。(令和 7 年度 81.3%)
- 令和 11 年度目標アンケートにおける「規則正しい生活(「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」)が大切だと思う。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 95%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 11 年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。
- 令和 11 年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。
- 令和 11 年度目標アンケートにおける「インターネットや生成 AI、SNS 等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。
- 令和 11 年度の教員 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を、令和 7 年度より削減する。
- 令和 11 年度目標アンケートにおける「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)。」に対して、「読書を全くしない」と回答する生徒の割合を 20%以下にする。(令和 7 年度 47.5%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 86%以上にする。(令和 7 年度結果 85.6%)
- 年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 75%以上にする。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(令和 7 年度結果 30.2%)
- 年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 74%以上にする。(令和 7 年度結果 73.6%)

○年度目標アンケートにおける「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 75%以上にする。

○年度目標アンケートにおける「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○中学生チャレンジテストにおける、国語のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より向上させる。(R5 中 1 から R7 中 3 : 0.2 99.6 → 99.8)

○中学生チャレンジテストにおける、数学のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より向上させる。(R5 中 1 から R7 中 3 : 0.8 98.7 → 99.5)

○年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 89%以上にする。(令和 7 年度 80.8%)

○年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 81%以上にする。(令和 7 年度 81.3%)

○年度目標アンケートにおける「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 50%以上にする。

○年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 60%以上にする。

○年度目標アンケートにおける「インターネットや生成 A I、S N S 等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 75%以上にする。

○年度末の校内調査において、教員 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を令和 7 年度より削減する。(令和 7 年度 38 時間 28 分)

○年度目標アンケートにおける「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない」と回答する生徒の割合を 40%以下にする。(令和 7 年度 47.5%)

3 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立城東中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を86%以上にする。(令和7年度結果 85.6%) ○年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。 ○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 ○年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を74%以上にする。(令和7年度結果 73.6%) ○年度目標アンケートにおける「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。 ○年度目標アンケートにおける「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ○学年・学級の取り組みや委員会活動を通じて規範意識を醸成し、ルールを守って行動する集団育成に取り組む。 ○日常的な見守りや心の天気、いじめアンケート、教育相談等から生徒の悩みや困り感など心の変化に気づき、保護者と連携を図るとともに個々の実情に応じてSCやSSWを活用し、安心して学校生活を過ごせるよう早期に適切な対応を行う。 ○安心して登校できる場所、教室復帰までのステップとして、校内教育支援センター(SSR)を常時開室し、不登校の状況改善に取り組む。	
指標 【生活指導部】 ・毎朝の正門指導や学校生活で気づいた段階での指導を心掛けると共に、学年・学級や委員会活動において、生徒への呼びかけを行い規範意識を高める取り組みを実施する。具体的には、生徒会であいさつ運動やノーチャイムデーを実施し、他の委員会にも活動を広げられるようにする。 ・全市で実施する年度目標アンケートの「学校の規則を守っていますか」の質問において肯定的回答率を全学年98%以上にする。(昨年度1年 97.9%・2年 99.3%・3年 97.9%) ・いじめアンケートを学期に1回以上、教育相談を年2回以上実施すると共に、日々の心の天気において、生徒の悩みや困りごとの変化に気づける体制をつくる。また必要	

に応じて、保護者や外部機関とも連携して、対応する。 ・不登校で教室に入りづらい生徒に対して、教室に入るステップとして SSR 教室の利用を促し、できることを増やししながら不登校の改善に取り組む。学期毎に不登校数に対する SSR 教室の利用率の増加をめざす。	
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 ○行事や学年、学級活動を通じて、自身の役割を果たすとともに仲間と協力して取り組む体験を重ね、主体的に行動する力や社会性、豊かな心を育む。 ○年間指導計画に基づいて道徳の授業や人権学習、キャリア教育を実施し、自己肯定感を育むとともに他者理解を深める教育活動を推進する。	
指標 【人権教育推進委員会】 ・年度末の生徒アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」について、肯定的に回答する生徒の割合を 95%以上にする。 ・年度末の生徒アンケートにおける「互いを理解し合い、仲間や自分を大切にしよう」と心がけている」について、肯定的に回答する生徒の割合を 95%以上にする。 【特別支援教育推進委員会】 ・ 【性教育推進委員会】 ・年間指導計画に基づき、発達段階に応じた性教育の講座を各学年で年 1 回実施する。また授業後のアンケートにて、「いのちは大切だと思いますか」「自分のことを大切にしようと思いますか」「他人のことを大切にしようと思いますか」などの項目において、95%以上の生徒が肯定的に回答することを目標とする。 【道徳】 ・	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
今後の改善点	

大阪市立城東中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○中学生チャレンジテストにおける、国語のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より向上させる。 ○中学生チャレンジテストにおける、数学のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より向上させる。 ○年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を89%以上にする。(令和7年度 80.8%) ○年度目標アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を81%以上にする。(令和7年度 81.3%) ○年度目標アンケートにおける「規則正しい生活(「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」)が大切だと思う。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○デジタルドリルや学習動画コンテンツの活用を促して自主学習習慣の定着を図り、生徒一人ひとりの学力を高めていく。 ○学習者用端末を活用して学習意欲を高める授業実践に取り組み、主体的に学習に取り組む態度を育成する。国語、数学、英語について、習熟度別授業やTTを通じて個に応じた学習指導の充実を図る。	
指標 【国語】 ・各学年で長期休業中に学習動画コンテンツを利用した自主課題を提出させる。 ・各学年で学期に1回以上の学習者用端末を利用した授業を行う。 【社会】 ・各学年で学習動画コンテンツを利用した自主課題を提出させる。 【数学】 ・生徒アンケートの「数学の授業がわかる」について、肯定的な回答の割合を85%以上にする。 【理科】 ・授業日のうち特別行事の日数を減じた日数の総和に対する観察・実験による理科室の稼働日の割合を30.0%以上とする。	

【英語】 - 生徒アンケートの「英語の授業がわかる」について、肯定的な回答の割合を85%以上にする。 【音楽】 - 楽曲内容(音程・リズム・詩の意味など)を知る上で、学習者用端末を活用するとともに、創作や鑑賞授業においても学習用端末を活用する。 【美術】 - 制作や鑑賞授業において、学習者用端末を單元ごとに活用する。制作では創造物の主題を考え、主体的に活動を行い、振り返りを毎時間行う。鑑賞では他者の感じ方、考えを共有することでより考えを広げたり、深めたりする。 【技術家庭科】 - ICTを活用して製作手順の説明を行い、生徒が主体的に実習に取り組めるようにする。 【保健体育科】 - ICTを活用した授業を体育分野8領域のうち4領域以上と保健分野で行う。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○生徒間で意見や考えを交流する協働的な学びを通じて考えを深め、自ら課題を見つけて粘り強く問題解決に取り組む態度を育てる授業づくりを工夫する。 指標 【技術家庭科】 実習や授業の中で、班活動の推進を図る。	
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ○毎月の欠席状況、保健室来室やけがの状況等について教員間で共通理解し、統計と分析に基づいて病気の予防やけがの防止について適切な指導を行う。 ○保健委員会の活動などを通して健康意識を高める取り組みを推進し、規則正しい生活習慣を身に着け、生涯にわたって心身の健康を維持して生活しようとする力を育む。 指標 【保健室】 - 保健室来室やけがの状況等について掲載したほけんだよりを年10回発行する。 【健康教育部】 - 保健委員会が全校生徒に向けて、健康放送を週に1回行う。 1年間を通して、各学年に応じた食事に関する講座1回ずつ行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
今後の改善点	

大阪市立城東中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を50%以上にする。 ○年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。 ○年度目標アンケートにおける「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。 ○年度末の校内調査において、教員1か月あたりの平均時間外勤務時間を、令和7年度より削減する。(令和7年度 38時間28分) ○年度目標アンケートにおける「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)。」に対して、「読書を全くしない」と回答する生徒の割合を40%以下にする。(令和7年度 47.5%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)】 ○デジタル教科書や学習支援ツールを活用する機会を増やし、情報モラルや情報リテラシーへの理解を深めながら正しく効果的に利用する力を育て、個別最適な学びを推進する。 ○スクールライフノートやクラスルームの活用を推進し、生徒の状況理解に役立てるとともに双方向型の課題の配信、生徒間の意見交流の連絡事項の速やかな伝達を図る。	
指標 【ICT委員会】 ・学習動画コンテンツ事業を利用した自習学習・家庭学習の推進をする。 ・スクールライフノートの活用率を75%以上にする。 【技術家庭科】 ・情報の学習を行う中で、情報モラルや情報リテラシーへの理解を深めながら正しく効果的に利用する力を育てる。	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・アンケート機能を活用し、集計並びデータ分析において業務の時間短縮を図る。	

・教職員のワークライフバランス意識を高め、心身の健康を維持しながら意欲的に業務に取り組むことができるよう、「学校園における働き方改革推進プラン」に基づき、働きやすい職場環境を整備する。 ・ICTを活用してペーパーレス化、掲示板や共有フォルダの活用、授業教材等の共有を図り、業務の効率化を進め、長時間勤務の解消をめざす。	
指標 【管理職】 ・アンケート機能の活用、時差勤務制度の活用、連絡掲示板の活用を推進する。	
取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】 ○静かに活字を読み進める機会を作り、読書を通じて想像力が育ち、様々な知識が得られることを体感して、楽しんで読書に取り組む習慣の定着を図り、語彙力を増やし、豊かな感性、表現する力を育てる。	
指標 【教務部】 ・文化委員の取り組みを通じて、図書館の来館者数を各学年、前年度より増加する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
今後の改善点	